

には、95%以上の2回接種が必要とされている。

- ⑬ 9～12歳になったら、日本脳炎ワクチンの4回目の接種を行う。⑪と同様、積極的な勧奨は差し控えられている。
- ⑭ 11～12歳で、DTトキソイドを接種する。接種量が0.1 mlであることに注意する(0.5 mlの誤接種が多い)。なお、年長児の百日咳患者の増加を受けて、現在、DTをDPTに変更する検討が始まっている。
- ⑮ 2008年4月1日から5年間の時限措置として、中学1年生に相当する年齢(13歳になる年度)の者と高校3年生に相当する年齢(18歳になる年度)の者に対して、麻疹風疹混合ワクチンの接種が定期接種として実施されている。幼児期に受けそびれていた人はもちろん、1回受けた人も2回目の接種を受ける。小学校入学前1年間の接種と同様に、95%以上の接種率が求められている。5年間の時限措置のため、対象となる1年間に忘れずに受けることが重要である。

ワクチンの副反応

ワクチンの副反応には、比較的頻度の高い軽症のものと、きわめてまれに起こる重症のものがある。生ワクチンでは、当該疾病様の症状として現れる反応がある。麻疹風疹混合ワクチンの初回接種後1週間～10日前後に認められる発熱・発疹は、それぞれ約2割・約1割の頻度で発生し、通常数日で治ることを接種前に説明しておく、被接種者あるいは保護者の心配が軽減される。

頻度や症状はワクチンごとに異なるため、必ずワクチンに梱包されている添付文書を一読してから接種すべきである。接種量や接種部位、接種方法に加えて、接種不適當あるいは接種要注意に該当する者、接種液の成分、効果、副反応について、詳細に記載されている。また、厚生労働省のホームページに予防接種ガイドライン等検討委員会作成の「予防接種間違い防止の手引き」が掲載

されているので、これも一読してから接種したい(2008年5月現在 URL: <http://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/tp1107-1k.html>)。

2008年4月1日から始まった麻疹風疹混合ワクチンの中学1年生、高校3年生相当年齢への接種や、11～12歳のDTトキソイド、9～12歳の日本脳炎ワクチンのように、思春期や若年成人に接種する場合、接種後30分以内に起こる血管迷走神経反射には注意を要する。血管迷走神経反射とは、極度の緊張や注射の痛みなどにより、迷走神経が刺激されて副交感神経有意になると、末梢血管が拡張して血圧が下がり、脳血流が低下、顔面蒼白、冷汗、気分不良、悪心・嘔吐、徐脈、失神などの症状がみられる。予防接種に限らず、採血や献血の際にもみられる反応である。日本赤十字社によると、献血に伴って発生した血管迷走神経反射の頻度は約0.7%である。しばらく臥位にしていることで回復する。接種後すぐに帰宅すると、帰宅途中で失神し転倒・外傷を認める場合があるので、接種後30分は接種場所に待機し、椅子に腰掛けるなどして経過観察することが望ましい。また、きわめてまれではあるが、アナフィラキシーショックなどの重症のアレルギー反応も接種後30分以内に発症する場合が多いため、接種直後の体調観察は重要である。

一方、ポリオワクチン接種後のポリオ様麻痺(約450万接種に1例程度)、麻疹含有ワクチン接種後の脳炎・脳症(約100～150万接種に1例以下)、風疹含有ワクチン接種後の血小板減少性紫斑病(約100万接種に1例程度)、おたふくかぜワクチン接種後の無菌性髄膜炎(数千接種に1例)などのまれではあるが重症の副反応については、その頻度と起こりえる時期、症状を接種前に説明しておき、心配な症状を認めた場合は医療機関を受診するように伝えておく。ワクチン接種後に普段と異なる症状が認められた場合は、医療機関を受診するように伝えておくことも重要である。接種医の診療時間外に発生した場合の連絡場所、受診場

所についても、あらかじめ情報提供しておくことが望ましい。

予防接種後健康被害救済制度

定期接種後の健康状況の調査ならびに健康被害が発生した場合の報告・被害救済の申請には、以下の3つがある。①予防接種法に基づいた予防接種健康被害救済制度により、医療費、医療手当、障害児年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の支給を求めるための申請、②予防接種実施要領に基づいて、接種者、主治医、本人または保護者らが、予防接種後副反応報告書を市町村(特別区)長に提出し、保健所、都道府県を經由して厚生労働省に報告する予防接種後副反応報告書、③一部の被接種者を抽出し、接種後の健康状況を調査し、保護者からハガキで返送してもらう予防接種後健康状況調査である。

①は重症の副反応で、主に入院あるいは長期の治療が必要となる事例が多く、予防接種との因果関係などを審議して救済給付の認定が行われる。

②はワクチンごとに報告基準が定められており、中等度あるいは①の申請前の迅速報告として比較的重症の副反応が報告される場合が多い。異常な副反応の集積の有無や、重篤な副反応の把握、ワクチンごとの副反応の頻度を検討する。③は軽微な比較的頻度の高い副反応が報告されることが多く、まれな副反応の把握には適していない。麻疹含有ワクチン後の発熱、発疹の頻度などは③の調査により明らかになってきたものである。

十分な予診・診察を尽くしてワクチンを接種しても、予期しない副反応が発生する場合がある。接種医の重大な過失がなく、当該予防接種によって起こったと認定された場合は、定期接種および臨時接種は予防接種法に基づいて、任意接種は医薬品医療機器総合機構法に基づいて健康被害救済が行われる(One more JIM → p594 参照)。

新しいワクチンの現状

日本でも2007年にHibワクチンが認可され、2008年夏以降に接種可能になる予定である。また、肺炎球菌結合型ワクチン、ヒトパピローマウイルスワクチンの国内臨床試験が終了あるいは実施中である。

▶ ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン

日本では年間7,000人の子宮頸癌の新規患者発生があり、年間2,500人が死亡しているとされるが、子宮頸癌予防HPV16/18型と、子宮頸癌に加えて尖圭コンジローマ予防のHPV16/18/6/11型に対するワクチンの製造販売承認申請が行われている一方で、臨床試験が進行中である。

WHOは、9～13歳の女性への定期接種、14～26歳の女性へのキャッチアップ接種を推奨しており、4価ワクチンは2006年に米国をはじめ各国で承認され、2007年6月末までに世界85カ国で承認、推定260万人以上に接種されている。2価ワクチンは2007年6月のオーストラリアでの承認をはじめにヨーロッパ諸国、UAEなど約40カ国ですでに承認され、米国、日本、アジア各国で申請中である。

▶ 結合型肺炎球菌ワクチン

現在日本では、2歳以上の脾臓摘出患者や、高齢者などに向けた23価多糖体肺炎球菌ワクチンはあるが、乳幼児向けの結合型ワクチンはない。薬剤耐性肺炎球菌の増加も問題になっており、国内での必要性が高まっている。

7価結合型ワクチンは2000年に米国、2001年に欧州で承認され、2007年8月現在、79カ国で承認され17カ国で定期接種に導入されている。WHOも定期接種プログラムに組み込むことを推奨しており、国内でも臨床試験が終了し、2007年9月に製造販売承認申請がなされている。



日本の予防接種制度は先進国と比較すると、接種可能なワクチンの種類が少なく、定期接種と任意接種では接種費用も大きく異なることから、定期接種に導入されなければ接種率はきわめて低いのが現状である。日本で開発され、安全で有効なワクチンであっても、定期接種に導入されていないことで接種率が低く、毎年多くの患者が発生している感染症も認められ残念である。感染症を制

圧してきた歴史の中で、人類が多くの知恵と時間、費用をかけて開発してきたワクチンを有効に利用し、1人でも多くの人が感染症から守られるように感染症対策に取り組みたい。

たや けいこ

国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1

Tel: 03-5285-1111 Fax: 03-5285-1129

New Books

医学書院刊

『認知行動療法トレーニングブック [DVD付]』

大野 裕(訳)

名大附属病院・総合診療部 伴 信太郎

「認知行動療法セミナー」という、何回かのシリーズのセミナーに参加したかのような思いにさせてくれる本である。決して安価な本ではない(定価12,600円)が、その何倍もの価値がある。

認知行動療法(cognitive-behavior therapy: CBT)はコンセンサス(常識)に基づくアプローチであり、以下の二つの中心的な教えに基盤を置いている。①認知は情動と行動に対して支配的影響力をもつ、②活動や行動の仕方が思考パターンや情動に強い影響を及ぼす可能性がある。

例えて言えば「コップの水が半分減ってしまった」と心配するのではなく、「未だ半分残っている」と安心するような考え方の切り替えや、「眠れない時は、時間を決めて早起きをしましょう」といった行動へのアドバイスを、体系的な治療法に組み上げたものと言える。

CBTでは自動思考の同定と修正に焦点を当てる(ここで言う自動思考とは、私たちがいる状況に置かれた場合に、心のなかをすばやく通過する認知のこと)。治療者はこうして内々に放置されがちな認知の流れについて患者を教育し、患者が自己内対話できるように支援するのであるが、その支援のための種々のスキルが懇切に解説される。

非専門家がCBTを精神療法として使おうとすると「生兵法は大怪我のもと」ということになるかもしれないが、「CBTの基本的技法を患者・家族へのアドバイスに生かす」という観点からの活用は、非常に広い適応範囲を有すると思う。CBTにおける治療関係の基本とされる“協同的経験主義

(collaborative empiricism)”という治療者と患者がともに問題点を明らかにし、解決法を探索していく協同作業は、医療者-患者関係の築き方にもきわめて有用な示唆を与えてくれる。その意味で、本書はメンタルヘルスの専門家以外の医療従事者に広く読んでいただきたい。CBTという精神療法に対する理解が深まるとともに、日常の对患者アドバイスに活かすこともできると思う。

訳文はよくこなれていて、翻訳本の読み難さはほとんどない。同じ原語に対して時に異なった訳語が当てられていて(【例】認知、思考)評者には少し読みづらかったが、訳者の意図があったのかもしれない。ところで、「良好な治療同盟はきわめて重要な治療の要素である。(中略)認知療法家も有能な治療者に共通の資質である誠実さ、温かさ、肯定的配慮、及び的確な配慮を治療環境で生かそうとする」とされている。こうなると、どれほどがCBT独特の認知的/行動的アプローチの効果で、どれほどがこの治療同盟の築き方の効果なのだろうかというところが興味深い疑問として残った。

ちなみに、本書付属のDVDは海外で臨床をしてみたいという希望を持つ人にとっては、英語での医療面接と、心理的臨床技法を一度に学ぶことできる「一粒で二度美味しい」教材であることを付記しておきたい。セミナーに参加して大野裕先生からいねいな指導をしていただいたような大変幸福な読後感が残ったすばらしい本であった。

● A5 / 頁360 / 定価12,600円(本体12,000円+税5%)
2007年 [ISBN978-4-260-00426-8]

小児科領域の院内感染

予防接種と院内感染

多屋馨子

金 原 出 版 株 式 会 社

総論

予防接種と院内感染

多屋 馨子 国立感染症研究所感染症情報センター
たや けいこ

キーポイント

院内感染対策としての予防接種は、患者発生前の平常時の対応がもっとも重要である。医療従事者から発生することによる影響は院内感染対策上きわめて大きく、自らが発症して重症化するリスクがあるばかりでなく、患者あるいは患者の付き添い者などへの感染源となり得ることを十分に認識して、対応にあたる必要がある。国内では予防接種で予防可能疾患がまだまだ多く発生しており、流行状況を把握しながら、事前対応に努めたい。また、免疫の有無を調べる場合においては、感度の低い補体結合反応（CF法）は使用しないことが重要である。CF法で測定すると、既罹患者であっても多くの者が陰性となり、この目的には使用できないことを周知する必要がある。

はじめに

院内感染の予防に、予防接種の果たす役割は大きい。しかし、感染症の中には、ワクチンが開発されていない、あるいは国内での接種がまだ認可されていないワクチンも多い。感染症の院内発生をゼロにすることは不可能であることから、少なくとも予防接種による予防が可能で、国内で接種可能なワクチンについては、勤務あるいは実習開始前にワクチンにより免疫を獲得しておくことが望まれる。医療従事者としては、事前準備がきわめて重要である。

日本では接種ができないワクチンも含まれているが、接種可能なワクチンも多く、日本においても、院内感染対策の観点から、また、医療従事者個人を守るという観念の両面から、予防接種の必要性が認識されることが望まれる。

予防接種の種類

国内外で接種可能なワクチン

表1に、国内で接種可能なワクチンを示す。一方、米国では、小児への接種スケジュールに加えて、図1に示したように、医療従事者に対して推奨しているワクチンが示されている¹⁾。

院内感染対策としてのワクチン

院内感染対策に用いられるワクチンとしては、主に、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、B型肝炎、インフルエンザの6種類があげられる。その他、状況によっては、ポリオやA型肝炎などが接種される。

麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘

これらの疾患は、医療従事者が発症することにより、本人に重症化の可能性があるばかりでなく、周囲への感染源となることから、免疫を獲得した上で勤務することが望ましいが、対策が実施されている医療機関は多いとはいえない

連絡先：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1

表1 日本で接種可能なワクチンの種類

生ワクチン	BCG ポリオ 麻しん風しん混合 麻しん 風しん 水痘 おたふくかぜ 黄熱：検疫所で接種可能	不活化ワクチン・トキソイド 2008年には、インフルエンザ菌 b 型 (Hib) ワクチンも接種可能になる予定	百日咳ジフテリア破傷風混合 (DPT) ジフテリア破傷風混合 (DT) 日本脳炎 インフルエンザ B 型肝炎 A 型肝炎 肺炎球菌 (23 価多糖体) 狂犬病 破傷風 コレラ
-------	---	--	--

ワクチン	適応	妊婦	免疫抑制状態 (HIV感染症、医原性、放射線療法を含む)	HIV感染症 CD4 ⁺ Tリンパ球数		糖尿病、心疾患、慢性呼吸器疾患、慢性アルコール依存症	無脾症(選択的摘脾術後および補体因子欠損症の末期を含む)	慢性肝疾患	腎不全、末期腎不全、血液透析患者	医療従事者
				<200 個/μl	≥200 個/μl					
破傷風、ジフテリア、百日咳(Td/Tdap)				10年毎に1回TdあるいはTdapの追加接種						
ヒトパピローマウイルス				女性は26歳までに3回接種(0, 2, 6カ月)						
麻疹、ムンプス、風疹(MMR)		禁忌						1~2回		
水痘		禁忌						2回(0, 4~8週)		
インフルエンザ				毎年不活化インフルエンザワクチンを1回接種						毎年不活化あるいは生インフルエンザワクチンを1回接種
肺炎球菌(多糖体)								1~2回		
A型肝炎				2回(0, 6~12カ月、あるいは0, 3カ月)						
B型肝炎				3回(0, 1~2カ月、4~15カ月)						
髄膜炎菌				1回ある場合はそれ以上						
帯状疱疹		禁忌						1回		

年齢が合致したこのカテゴリーに属する人と免疫がない人は全員(例：予防接種記録がないあるいは罹患の証明がない)

もし他のリスク因子があれば推奨(例：医学的理由、職業上の理由、生活様式、他の適応)

図1 米国の予防接種スケジュール (2007年10月~2008年9月) (ACIP, 2008¹⁾)

のが現状である。その要因の一つとして、これらの疾患は、小児に好発する軽症の疾患であるという既成概念が、成人での対策を困難にしているように思われる。2007年に全国流行した麻疹に代表されるように (<http://idsc.nih.gov/disease/measles/index.html>)²⁾, 小児のみならず成人においても多くの患者が発生していることを医療従事者自らが認識し、重症化例、死亡例の発生も報告されており、決して軽症の疾患と侮ってはいけないことを国民一人一人が認識する必

要があると考えられる。これら4疾患に関しては、職員のみならず、実習などで患者と接触する可能性のある学生についても職員と同様の対応が望まれる。

●麻疹

国立感染症研究所感染症情報センターホームページ：「麻疹」のサイトに公開しているが、2008年1月、「医療機関での麻疹対応ガイドライン第二版 <http://idsc.nih.gov/disease/measles/hosp-ver2.pdf>³⁾」を作成した。この中で、

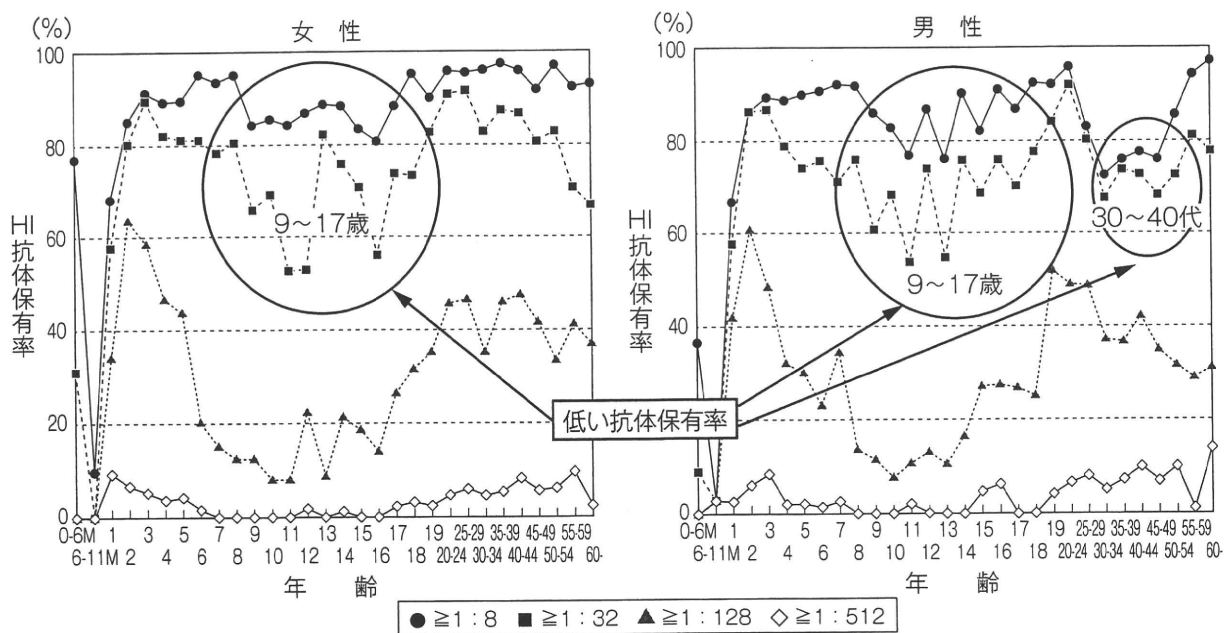


図2 年齢別風疹 HI 抗体保有率 (2006 年度感染症流行予測調査より：暫定値)

平常時の対策，院内での麻疹患者発生時の対策について詳細に記載しているので，麻疹に関してはこちらを参照していただきたい。

2007 年の麻疹国内流行中には，医療従事者からの発生も多く，緊急の院内感染対策について多くの相談が寄せられた。2007 年 12 月 28 日に「麻疹に関する特定感染症予防指針」が策定され，厚生労働大臣の告示として発表された⁴⁾。医療従事者および医療に関係する学生等の実習の機会においては，任意接種の枠組みではあるものの，必要回数のワクチンを受けていない者に対しては，予防接種が推奨されている。患者発生があつてからの対応はきわめて困難であり，発生前の平常時の対応がもっとも重要である。少なくとも医療従事者や医療機関で実習する学生等については，麻疹に対する免疫を保有していることが必要であると考えられる。

2008 年 1 月 1 日から，麻疹は感染症法に基づく五類感染症全数把握疾患となり，全国の医療機関に届出が求められている。届出の基準や届出様式などは，上記麻疹のサイトに公開している。通常，患者発生が少ない 2 月現在，1 月 1 日～2 月 17 日までの 7 週間に 2,119 名の患者

報告があり，2008 年春の流行が懸念されるころである。患者発生は毎週増加傾向にあり，今からの事前対策が必要である⁵⁾。ワクチン未接種で麻疹未罹患者においては，流行前の予防接種が推奨される。

また，2007 年の流行を経験して，相談事項として多かった内容については，Q & A にまとめ，国立感染症研究所感染症情報センターホームページで紹介している (<http://idsc.nih.gov/jp/disease/measles/QA.html>)。

●風 疹

2006 年度感染症流行予測調査によると⁶⁾，図 2 に示すように，30～40 代の男性，10 代の男女の抗体保有率が低く，これらの年代の医療従事者ならびに実習生等は，早急な対策が求められる。2008 年 4 月から 5 年間の時限措置で，中学校 1 年生，高校 3 年生相当年齢の者に，2 回目の麻疹風疹混合ワクチンの接種を行うことが決まっており，対象者への情報提供が必要である。

風疹が産婦人科病棟で発生した場合の影響は甚大であり，医療従事者ならびに実習中の学生については，任意接種の枠組みではあるものの，

患者と接触する勤務あるいは実習につく前に、ワクチン接種とその後の抗体確認を済ませておきたい。また、2008年1月から麻疹とともに風疹も全数把握疾患となり、1月1日～2月17日までの7週間に61名が報告されている。

風疹は実験室診断が行われていない場合、別の発疹性疾患である場合も少なくなく、今後は麻疹とともにますます実験室診断の重要性が増加すると考えられる。

●流行性耳下腺炎

流行性耳下腺炎においては、効果的なワクチンが開発されているにもかかわらず、任意接種の枠組みであるため接種率が低く、毎年多くの患者が発生している。

齊藤⁷⁾は、耳下腺腫脹の7日前から腫脹後9日まで唾液中にウイルスを排泄しており、感染源となると報告している。また、患者と接触後の緊急対応では発症予防ができないことから、感染前のワクチン接種が唯一の予防方法であり、免疫の有無を調べたい場合にはEIA法を用いる。その他の方法は、感度が十分ではないため多くの陰性者が発生し、利用できない。

合併症として頻度の比較的高い髄膜炎に加えて、難聴、睾丸炎、膵炎なども十分な注意が必要であり、入院患者も多く報告されていることから、決して小児の軽症疾患と侮ることはできない。

●水痘

病棟内で院内感染対策が講じられていない状況において、臨床的に水痘と診断した患者が発生した場合、病棟内全員（医療従事者、実習中の学生、付き添い家族、入院患者）の罹患歴およびワクチン歴を確認し、対策を必要とする推定感受性者を把握する。水痘は、麻疹とともに空気感染（飛沫核感染）するウイルス感染症である。

罹患歴・予防接種歴が不明な者、ワクチン接種済みであっても免疫獲得の有無が不明な者については、市販されている水痘抗原皮内テストを用いることにより、早ければテスト後24時

間（24時間で陰性の場合、48時間後）で水痘に対する細胞性免疫の有無が判定できる。5mm以上の発赤を陽性とする。また、抗体価を測定し免疫の有無を確認する方法があるが、決して感度が低い補体結合反応（CF法）により抗体確認を行ってはならない。

患者と空調を共有していた、あるいは同じフロアにいた入院患者が感受性者と判明した場合、水痘ワクチン接種が可能者についてはウイルスに曝露後72時間以内（48時間以内が望ましい）に水痘ワクチンの接種を行うことで発症を予防できる可能性がある。ワクチン接種不相当者で、水痘を発症した場合のリスクが大きい場合などにおいては、水痘帯状疱疹ウイルスに対する抗体価が高値であるγグロブリン製剤を選択して投与する方法や、Asanoら⁸⁾の報告による患者との接触後7日目から40mg/kg/日（分4）を5～7日間内服する方法があるが、健康保険の適用ではないこと、いずれの方法も100%の予防は困難であることなどが院内感染対策上の問題点として挙げられる。しかし、何もしなければ感受性者への感染はきわめて高率であり、迅速な対応が求められる。

薬剤として起こり得る副反応について、特に血液製剤であるγグロブリン製剤については、対象者に十分なインフォームドコンセントが必要となる。対応を行ったにもかかわらず、間に合わずに発症した場合を想定して、あらかじめ発症する可能性がある期間（接触後1週間から少なくとも3週間）は感受性者との隔離が必要である。

医療従事者に関しては、勤務前のワクチン接種が望ましい。もし、ウイルス曝露時に感受性者であることが判明した場合には、ワクチン接種が可能であれば、患者との接触後72時間以内（48時間以内が望ましい）に水痘ワクチンの接種を行う。ワクチン接種不相当者、あるいはワクチン接種を希望しない場合は、発症する可能性がある期間（接触後1週間から少なくとも3週間）は感受性者のいる病棟での勤務は避け

表2 免疫の有無を調べる場合に用いる抗体測定方法とワクチン接種推奨の対象となる基準（案）

疾患名	測定方法
麻疹	EIA法（-と±は必ず，+の場合どこまで接種の対象とするかは現在検討中），PA法（1：64以下），NT法（1：4未満，ただし多くの検体の検査には適さない）
風疹	HI法（1：16以下），EIA法（-と±は必ず，+の場合どこまで接種の対象とするかは現在検討中）
流行性耳下腺炎	EIA法（-と±は必ず）
水痘	EIA法（-と±は必ず），IAHA法（1：2以下），*抗体測定ではないが，水痘抗原皮内テスト（48時間後判定で発赤5mm未満）

注：免疫の有無を調べる目的で，CF法は使用しない。

るべきである。

帯状疱疹の場合，播種性帯状疱疹はもちろんのこと，限局性の帯状疱疹であっても，水疱中には多量のウイルスが含まれていることから，感受性者がウイルスの曝露を受けると，水痘として発症する。このことから，水痘と同様の対応が医療機関においては必要である。限局性の帯状疱疹の場合，感染力は水痘と同等ではないものの，隔離体制になっていない場合が多く，感受性者が入院する病棟においては，帯状疱疹も水痘と同様の隔離体制をとっておくことが望ましい。

付き添い者が感受性者と判明した場合，ワクチン接種が可能であれば，患者との接触後72時間以内（48時間以内が望ましい）に水痘ワクチンの接種を行う。ワクチン接種不適合者，あるいはワクチン接種を望まない者については，発症する可能性のある期間（接触後1週間から少なくとも3週間）は来院を遠慮していただく必要がある。

水痘患者の発生があった場合，水痘感受性者の入院に関しても対策が必要である。患者が隔離体制にあることが前提であるが，入院が必要な患者については，できるだけワクチンを接種してからの入院が望ましい。ワクチン接種不適合者の場合は，当該者は，患者から完全に隔離されるような配慮が必要である。付き添いの家族についても同様である。

●麻疹，風疹，流行性耳下腺炎，水痘に対する抗体測定方法

院内感染対策として，免疫の有無の確認に用いる抗体測定は，感度の高い検査が必要となり，補体結合反応（CF法）を用いてはならない。また，どこまでをワクチン接種の対象とするかの判断が求められる。私案であるが，表2に抗体測定方法をまとめてみた。検査に必要な費用はEIA法がもっとも高価である。

B型肝炎

一過性感染の場合，多くは不顕性感染に終わるが，感染者の約20～30%が急性肝炎を発症し，このうち約2%が劇症肝炎となることから，すでに対策を実施している医療機関が多いと考えられる。引き続き実習生も含めた対策が望まれる。

2回接種後，3回目の接種を忘れないように実施しておくことが，長期の免疫維持には重要である。

インフルエンザ

インフルエンザに関しては，発症を完全に予防することは不可能であるが，重症化を予防し，重症化のリスクを有する者を守る観点から，米国などでは医療従事者に接種が勧奨されており，わが国においても接種率は年々増加している。

「インフルエンザ施設内感染予防の手引き

表3 小児科定点から報告された年間患者報告数 (1999年14週～2006年)

太字：定期接種 細字：任意接種	1999 (14週～)	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006 (2007年 1月現在)
水痘	162,424	275,036	271,409	263,308	250,561	245,941	242,296	264,915
百日咳	2,653	3,804	1,760	1,458	1,544	2,189	1,358	1,502
風疹	2,972	3,123	2,561	2,971	2,795	4,239	895	509
麻疹(成人麻疹を除く)	5,875	22,552	33,812	12,473	8,285	1,547	537	519
流行性耳下腺炎(ムンプス)	69,070	132,877	254,711	180,827	84,734	127,592	187,837	200,345

(感染症発生動向調査より：定点把握疾患、小児科定点：約3,000)

(2006年2月改訂)」が厚生労働省健康局結核感染症課・日本医師会感染症危機管理対策室より出されているが、施設従業者のワクチン接種の項には、「予防接種の意義、有効性、副反応の可能性等を十分に説明して同意を得た上で、積極的に予防接種の機会を提供するとともに、接種を希望する者には、円滑に接種がなされるように配慮する」と記載されている。

ポリオ

上記のワクチンと異なり、すべての人に推奨されるものではないが、1975～1977年生まれの人については、その他の年齢群に比してポリオに対する抗体保有率が低いとされ⁹⁾、任意接種の枠組みで接種が推奨されている。特に、ポリオワクチンを接種した乳幼児の便中には、個人差はあるものの1カ月程度ワクチンウイルスが排出される場合があり、きわめてまれに2次感染を起こし、接触者が麻痺を発症する場合があることから、これらの者と接触する機会が多い場合には、接種が勧められる。

A型肝炎

感染症法に基づく四類感染症に指定され、すべての患者が届出対象となっているが、2005年は1年間に170人の報告があった。Kiyoharaら¹⁰⁾は、わが国のA型肝炎ウイルスに対する血

清疫学調査を定期的実施し、年々感受性者が増加していることを報告している。1973年の調査では、50歳以上の者の96.9%がA型肝炎に対する免疫を保有していたが、それが、96.9% (1984年)、74.3% (1994年)、50.3% (2003年)と徐々に減少しており、A型肝炎の医療に携わる可能性のある医療従事者の場合は、ワクチンにより免疫をつけておくことが望まれる。特に、50歳未満の者については、注意が必要と考える。

ワクチンで予防可能疾患の国内発生状況

本稿では感染症法に基づく届出疾患のうち、ワクチンで予防可能疾患を抜粋して記載した。表3は定点把握疾患であるため、国内発生の全数が把握されているわけではないが、定期予防接種対象疾患(麻疹、風疹、百日咳)と任意予防接種対象疾患(水痘、流行性耳下腺炎)との間には、100倍以上の差が認められており、国内での患者発生の抑制には、定期予防接種化が望まれる。表4は全数把握疾患であるが、2008年1月1日からは、麻疹と風疹がこちらの枠組みに入ることになった。なお、急性脳炎はすべてがワクチンで予防可能疾患ではないが、麻疹脳炎、風疹脳炎、ムンプス脳炎、水痘脳炎、インフルエンザ脳症などはこの枠組みでも報告が求められている。

患者の発生動向を迅速に把握することは、疾病対策のみならず院内感染対策にも利用可能で

表4 全医療機関から報告された年間患者報告数 (1999年14週～2006年)

	1999年 (14週～)	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年 (07/1/9 現在)
黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	2
コレラ	39	58	50	51	25	86	56	47
A型肝炎	761	381	491	502	303	139	170	316
B型肝炎	510	425	330	332	245	241	208	225
急性脳炎	—	—	—	—	12 (11/5以降)	166	188	160
ジフテリア	2	1	0	0	0	0	0	0
髄膜炎菌性髄膜炎	10	15	8	9	18	21	10	14
先天性風疹症候群	0	1	1	1	1	10	2	0
日本脳炎	5	7	5	8	1	5	7	7
破傷風	66	91	80	106	73	101	115	115
ポリオ	0	0	0	0	0	0	0	0

(感染症発生動向調査より：全数把握疾患)

ある。

おわりに

疾患ごとの解説については、国立感染症研究所感染症情報センターホームページに掲載され

ている感染症の話 (<http://idsc.nih.gov/idwr/kansen/index.html>) に詳細に記載されている。予防接種に関する情報は同じく感染症情報センターのホームページの予防接種情報 (<http://idsc.nih.gov/vaccine/vaccine-j.html>) にも可能な限り情報を公開していく予定である。

文 献

- 1) The Advisory Committee on Immunization Practices (ACIP) : Recommended Adult Immunization Schedule—United States, October 2007-September 2008. MMWR 56 : Q1-Q4, 2007
- 2) 国立感染症研究所感染症情報センター：緊急情報 2012 年麻疹排除 (Elimination) に向けて
<http://idsc.nih.gov/disease/measles/index.html> (2008 年 1 月現在)
- 3) 国立感染症研究所感染症情報センター：医療機関での麻疹対応ガイドライン第二版
<http://idsc.nih.gov/disease/measles/hosp-ver2.pdf> (2008 年 1 月現在)
- 4) 舩添要一：麻しんに関する特定感染症予防指針。厚生労働省告示第 442 号。2007 年 12 月 28 日
<http://idsc.nih.gov/disease/measles/kokuji442-191228.pdf> (2008 年 1 月現在)
- 5) 厚生労働省，国立感染症研究所：注目すべき感染症麻しん。感染症週報。第 10 巻，第 7 号，pp10-14, 2008
<http://idsc.nih.gov/idwr/kanja/idwr/idwr2008/idwr2008-07.pdf> (2008 年 2 月現在)
- 6) 国立感染症研究所感染症情報センター：風疹速報。感染症流行予測

調査

<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Rmenu.html> (2008年1月現在)

- 7) 齊藤義弘：臨床と微生物。2006
- 8) Asano Y et al : Postexposure prophylaxis of varicella in family contact by oral acyclovir. Pediatrics 92 : 219-222, 1993
- 9) 厚生労働省健康局結核感染症課，国立感染症研究所感染症情報センター：ポリオ。平成17年度感染症流行予測調査報告書，pp8-44, 2007
- 10) Kiyohara T et al : Shifting seroepidemiology of hepatitis A in Japan, 1973-2003. Microbiol Immunol 51 : 185-189, 2007

小児医療に携わる多くの方々、
必読の診療指針!!

項目ごとに執筆者自身の意見、
強調点なども「ひと言」として
付け加えたユニークな編集!!



4月 増刊号

◆ 特集 ◆
**日常診療に役立つ
 最新の薬物治療と副作用対策**

B5判 312頁 53図 136表 定価6,930円(本体6,600円+税5%)

目次内容

総論 薬理遺伝とオーダーメイド医療—とくに小児の薬物療法との関連—池谷 修ほか/薬物動態と小児の薬物療法…越前 宏俊/小児の薬物療法とわが国の問題点…伊藤 進/小児の剤形、上手な薬の飲ませ方および服薬指導の実際…石田里子ほか **新しい薬物療法** 小児気管支喘息…井上 壽茂/てんかん、けいれん重積、熱性けいれん…須貝研司/リウマチ性疾患…藤川 敏/アトピー性皮膚炎…齊藤隆三/片頭痛…山中 岳/小児の不整脈…住友直方/川崎病…二瓶浩一ほか/悪性固形腫瘍…河本 博ほか/小児2型糖尿病…雨宮 伸ほか **副作用とその対策・治療—症状・検査所見から早期発見まで—** 皮膚症状…中川秀己/精神・神経症状…佐々木征行/消化器症状…吉村文一/造血器障害…堀 壽成ほか/自己免疫症状…武井修治/眼症状…羽藤 晋ほか/全身症状、一般症状…白川清吾ほか/肝・胆・膵障害…乾 あやのほか/腎・尿路系障害…谷澤隆邦/薬物中毒…大橋敦良 **各論—薬効および副作用とその対策—** 救急蘇生薬…市川光太郎/経口補液剤…関根孝司/経腸栄養剤、静脈栄養輸液剤…清水教一/抗菌薬…佐藤吉壮/抗ウイルス薬…森内昌子ほか/鎮痛薬・解熱薬…浅野 健/抗アレルギー薬…佐藤一樹ほか/循環器系薬…宮本朋幸ほか/抗てんかん薬…吉井 聡ほか/向精神薬とその近縁薬…冨田和巳/腎疾患治療薬…池住洋平ほか/内分泌薬…児玉浩子/造血薬…宮地良介ほか/消化器用薬…位田 忍/ワクチン、予防接種…神谷 齊/漢方薬、生薬…春木英一 **その他** 薬物療法に関する医療事故とその対策…薛田 寛ほか/医薬品被害救済制度…佐藤淳子/妊娠中の薬物治療…渡邊央美/母乳と薬物…西田嘉子ほか/外用剤の使い方—皮膚外用剤…中川秀己/外用剤の使い方—吸入薬…岸田 勝ほか/外用剤の使い方—坐剤・貼付剤・点鼻剤…木津純子



2006・4

K 金原出版

〒113-8687 東京都文京区湯島2-31-14 電話03-3811-7184(営業部直通) FAX 03-3813-0288
振替00120-4-151494 ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

予防接種後副反応報告書

市町村（特別区）長様

PC入力の場合は、1項目毎に必ずEnterキーを押してください

※：必須入力項目

患者情報 (被接種者情報)	氏名	(カナ)セイ	メイ
	(漢字)姓		名
	性別	※ <input type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性 <input type="radio"/> 不明	
	生年月日	年 月 日	
現住所	都道府県※	市町村(特別区)※	それ以下
電話番号	保護者氏名 姓 名		
報告者情報	報告者	氏名※	施設名
	被接種者との関係	※ <input type="checkbox"/> 接種者 <input type="checkbox"/> 主治医 <input type="checkbox"/> 本人又は保護者 <input type="checkbox"/> その他 (その他の場合詳細:)	
報告者住所	都道府県※	市町村(特別区)※	それ以下
接種場所	施設名	都道府県※	市町村(特別区)※
接種の状況	ワクチン名	※	期
	同時接種の有無	※ <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (ありの場合詳細:)	
	製造所名	※	ロット番号
	接種部位	(その他の場合詳細:)	
	接種方法	※	
	接種日時	年 月 日	時 分
	接種時年齢	歳 月 日	接種前体温 度 分
	家族歴	出生体重 グラム	
	予診票での留意点	※ <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (ありの場合詳細:)	
	副反応情報	発生日時	年 月 日
副反応名		①	②
		③	④
		⑤	⑥
		⑦	⑧
		⑨	⑩
		※1: 詳細を記入してください ()	
		※2: 詳細を記入してください ()	
概要		※ (症状・兆候・検査臨床経過・診断) ※[Alt]+[Enter]で改行	
他疾患の可能性		※ (考えられる鑑別疾患名:)	
予後	予後	※ <input type="checkbox"/> 死亡 死亡日 年 月 日	
	予後	※該当する予後全てをチェックして下さい <input type="checkbox"/> 剖検所見 <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (ありの場合詳細:)	
		<input type="checkbox"/> 重篤 (死亡の危険あり)	
		入院	病院名
		入院期間	年 月 日 ~ 年 月 日 日数
		後遺症	※ (Alt)+[Enter]で改行
		回復状況	※ <input type="radio"/> 回復している <input type="radio"/> 回復していない <input type="radio"/> 不明
報告回数	副反応報告回数	※ <input type="radio"/> 第1報 <input type="radio"/> 第2報 <input type="radio"/> 第3報以降	
保護者あるいは被接種者の同意	※ <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
この報告書は、予防接種後の副反応の発生状況を把握し、予防接種の安全性の確保を目的としています。このことを理解の上、本報告書が市町村（特別区）、都道府県及び厚生労働省に報告されることに同意します。		保護者または被接種者自署 []	

関係者記入欄

自治体・保健所名	受付日時	担当者名	整理番号
市町村(特別区)	年 月 日 時 分		
保健所	年 月 日		
都道府県	年 月 日		
厚生労働省	年 月 日		

予防接種後副反応報告書（記入例）

千葉県 市町村（特別区）長様

※：必須入力項目

患者情報 (被接種者情報)	氏名	(カナ)セイ (漢字)姓	コウセイ 厚生	メイ 名	タロウ 太郎											
	性別	<input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性 <input type="radio"/> 不明			生年月日	平成 21 年 1 月 1 日										
	現住所	都道府県	千葉県	市町村(特別区)	千葉県	それ以下 中央区港〇-〇										
	電話番号	000	111	2222	保護者氏名	姓 厚生 名 花子										
報告者情報	報告者	氏名			予防 一郎	施設名	〇〇総合病院									
	被接種者との関係 <input type="checkbox"/> 接種者 <input checked="" type="checkbox"/> 主治医 <input type="checkbox"/> 本人又は保護者 <input type="checkbox"/> その他(その他の場合詳細:)															
接種場所	別紙「選択項目一覧」を参照し項目を指定してください															
	施設名	〇〇小児科医院			都道府県	東京都	市町村(特別区)	新宿区								
	接種の状況	ワクチン名	DPT			期	1期 初回 3回目									
	同時接種 ワクチンの有無	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (ありの場合詳細:)														
接種の状況	製造所名	北里研究所(北里)			ロット番号	AC123A										
	接種部位	右上腕(その他の場合詳細)			接種方法	皮下										
	接種日時	平成	21	年	4	月	5	日	<input checked="" type="radio"/> 午前 <input type="radio"/> 午後	11	時	15	分			
	接種時年齢	0	歳	3	か月	「皮下」「筋肉内」「経口」「経皮(管針)」の中から選択してください										
家族歴	兄が卵アレルギー															
	「右上腕」「左上腕」「経口」「その他」の中から選択してください															
予診票での留意点	<input type="radio"/> なし <input checked="" type="radio"/> あり (ありの場合詳細: 風邪気味)															
副反応情報	発生日時	平成	21	年	4	月	5	日	<input checked="" type="radio"/> 午前 <input type="radio"/> 午後	0	時	30	分	発生日	日	
	副反応名	D08			D13											
	概要 H21/4/5 接種後しばらく様子を見てから帰宅 普段と変わった様子はなかったが、夜中に汗をかいていたので衣類を交換した際に 母親が接種部位の腫脹に気づかれた。熱を測ったら39.5度あった。 翌日来院、腫脹・発赤があり、熱39.2度 解熱剤とXXX軟膏を処方し							副反応名に※1・※2と記載があった場合は、その詳細を記入してください								
	4/7 発熱も下がり平熱となる。 変わらず腫脹あり。 引き続き経過観察とした。							「ない」「低い」「高い」「極めて高い」の中から選択してください 「ない」以外の場合は「考えられる鑑別疾患名」記入してください								
予後	予後 ※該当する予後全てをチェックして下さい							<input type="checkbox"/> 死亡 死亡日 年 月 日								
	<input type="checkbox"/> 重症(死亡の危険あり)							<input type="checkbox"/> 入院 病院名 入院期間 年 月 日 ~ 年 月 日 日数								
	<input checked="" type="checkbox"/> 後遺症 詳細							<input checked="" type="checkbox"/> 外来経過観察中								
	<input type="checkbox"/> 治癒・軽快							<input type="checkbox"/> その他 詳細								
回復状況	<input type="radio"/> 回復している <input checked="" type="radio"/> 回復していない <input type="radio"/> 不明															
報告回数	副反応報告回数 <input checked="" type="radio"/> 第1報 <input type="radio"/> 第2報 <input type="radio"/> 第3報以降															
保護者あるいは被接種者の同意 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし																
この報告書は、予防接種後の副反応の発生状況を把握し、予防接種の安全性の確保を目的としています。このことを理解の上、本報告書が市町村(特別区)、都道府県及び厚生労働省に報告されることに同意します。																
保護者または被接種者自署 []																

記入する必要はありません																
--------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

基本情報登録画面

PC入力の場合は、1項目毎に必ずEnterキーを押してください

報告者情報	報告者	氏名				施設名		
	被接種者との関係	<input type="checkbox"/> 接種者 <input type="checkbox"/> 主治医 <input type="checkbox"/> 本人又は保護者 <input type="checkbox"/> その他（その他の場合詳細： _____）						
	報告者住所	都道府県	<input type="text"/>	市区町(特別区)	<input type="text"/>	それ以下	<input type="text"/>	
接種場所	施設名				都道府県	<input type="text"/>	市町村(特別区)	<input type="text"/>

内容をすべて消去

入力画面へ複写

予防接種後副反応報告書作成に対する注意点

- プルダウン以外の項目については必ず入力後にエンターキーを押してください。
- 終了時は必ず画面右下にある入力チェックボタンを押下し入力チェックを行ってください。
入力チェックを行わないと接種からの日数の計算ができません。
その際、入力エラー項目には、ピンクの色がつきますが、項目の最初のセルのみに色がつきますので、ご確認はその項目全体で御願います。

項目名	記入 必須項目	概要	入力可能 桁数
患者情報			
氏名(カナ)		予防接種後に副反応を認めた者の氏名(カナ)をセイメイ別々に記入してください	セイ 20 メイ 20
氏名(漢字)		予防接種後に副反応を認めた者の氏名(漢字)を姓・名別々に記入してください	姓 20 名 20
性別	<input type="radio"/>	予防接種後に副反応を認めた者の性別を選択してください、不明の場合は「不明」を選択してください	性別 -
生年月日		予防接種後に副反応を認めた者の生年月日を記入してください、半角数字で入力してください	和暦 - 年・月・日 2
現住所		予防接種後に副反応を認めた者の現住所を記入してください	都道府県 - 市区町村 20
電話番号		予防接種後に副反応を認めた者の電話番号を記入してください、半角数字で入力してください	以下 100
保護者氏名		予防接種後に副反応を認めた者の保護者氏名を姓・名別々に記入してください	市外局番 4 市内局番 4 加入者番号 4
報告者情報			姓 20 名 20
氏名	<input type="radio"/>	副反応報告書を作成した者の氏名を記入してください	氏名 20
施設名	<input type="radio"/>	副反応報告書を作成した者の所属する施設名を記入してください	施設名 100
接種者との関係			関係 -
報告者住所	<input type="radio"/>	報告者との関係を選択してください。該当する項目が存在しない場合は「その他」を選択し「その他」欄に記入してください。 報告者の所属する施設の住所を記入してください(本人あるいは保護者の場合は現住所を記入してください)	詳細 100 都道府県 - 市区町村 20 以下 100
施設名		予防接種を実施した施設名(場所)を記入してください	施設名 100
接種場所	<input type="radio"/>	予防接種を実施した施設の都道府県・市区町村を記入してください	都道府県 - 市区町村 20

予防接種後副反応報告書作成に対する注意点

1. プルダウン以外の項目については必ず入力後にエンターキーを押してください。
2. 終了時は必ず画面右下にある入力チェックボタンを押下し入力チェックを行ってください。
入力チェックを行わないと接種からの日数の計算ができません。
その際、入力エラー項目には、ピンクの色が付きませんが、項目の最初のセルのみに色が付きまますので、ご確認はその項目全体で御願いたします。

接種の状況	項目名	記入 必須項目	概要	入力可能 桁数
	ワクチン名	<input type="radio"/>	実施したワクチンの名前を選択してください 手書き記入の場合は「選択項目一覧」を参考にして記入してください	ワクチン名
	期	<input type="radio"/>	実施したワクチンの期を選択してください 手書き記入の場合は「選択項目一覧」を参考にして記入してください	期 有無 詳細
	同時接種ワクチンの有無	<input type="radio"/>	予防接種を実施した際に同時に他の予防接種を実施しているか選択してください、実施した場合はそのワクチンの名前を「ありの場合詳細」欄に記入してください	20
	製造所名	<input type="radio"/>	実施したワクチンの製造所を選択してください 手書き記入の場合は「選択項目一覧」を参考にして記入してください	-
	ロット番号	<input type="radio"/>	実施したワクチンのロット番号を記入してください、半角英数字・半角記号で入力してください 手書き記入の場合は「選択項目一覧」を参考にして記入してください	15
	接種部位	<input type="radio"/>	実施したワクチンの接種した部位を選択してください、該当する項目が存在しない場合はその他を選択し「その他の場合詳細」欄に記入してください 手書き記入の場合は「選択項目一覧」を参考にして記入してください	- 20
	接種方法	<input type="radio"/>	実施したワクチンの接種方法を選択してください 手書き記入の場合は「選択項目一覧」を参考にして記入してください	-
	接種日時	<input type="radio"/>	予防接種を実施した日時を記入してください、半角数字で入力してください	- 和暦 年・月・日 午前/午後 時・分
	接種時年齢	<input type="radio"/>	予防接種を実施した時の年齢を記入してください、0歳の場合は「年齢」ではなく「月齢」まで記入してください、半角数字で入力してください	3 2
	接種前の体温	<input type="radio"/>	予防接種を実施した時の体温を記入してください、半角数字で入力してください	2 3
	家族歴	<input type="radio"/>	血縁関係のある者において、今回の副反応と関連があると考えられる疾病があった、あるいは現在ある場合は記入してください	家族歴
	出生体重	<input type="radio"/>	出生時の体重を記入してください、半角数字で入力してください	出生体重
	予診票での留意点	<input type="radio"/>	予診票の内容を選択してください、ありの場合は「ありの場合詳細」欄に記入してください	あり・なし 詳細 和暦
副反応情報	発生日時	<input type="radio"/>	副反応が発生した日時を記入してください、発生日(日付)は発生日時を記入し入力チェックを行うと自動的に表示されます、半角数字で入力してください	2 年・月・日 午前/午後 時・分
	副反応名	<input type="radio"/>	該当する副反応名を選択してください、複数選択が可能です、なお選択された副反応名に「※」がある場合は詳細を記入してください 手書き記入の場合は「選択項目一覧」を参考にして記入してください	- 副反応名 詳細1 詳細2
	概要	<input type="radio"/>	副反応の概要を詳しく記入してください	40 2000
	他疾患の可能性	<input type="radio"/>	今回の副反応が他疾患によるものである可能性について選択してください、なお可能性が「極めて高い」「高い」の場合は考えられる鑑別疾患名を「考えられる鑑別疾患名」欄に記入してください	- 他疾患の可能性 疾患名
				100

予防接種後副反応報告書作成に対する注意点

1. プルダウン以外の項目については必ず入力後にエンターキーを押してください。
2. 終了時は必ず画面右下にある入力チェックボタンを押下し入力チェックを行ってください。
入力チェックを行わないと接種からの日数の計算ができません。
その際、入力エラー項目には、ピンクの色が付きませんが、項目の最初のセルのみに色がつきますので、ご確認はその項目全体でお願いいたします。

項目名	記入 必須項目	概要	入力可能 桁数
予後	<input type="radio"/>	予後を選択してください、複数選択が可能です	-
予後(死亡)	<input type="radio"/>	予後に死亡を選択した場合、死亡日と剖検所見の有無を記入してください(必須記入)、なお剖検所見がある場合は「詳細」欄に記入してください	- 年・月・日 剖検所見 詳細 50
予後(入院)	<input type="radio"/>	予後に入院を選択した場合、病院名と入院期間を記入してください(必須記入)、現在入院中の場合は退院日の記入は必要ありません、入院日数は入院期間を記入し入力チェックを行うと自動的に表示されます	50 入院日開始和暦 入院日終了和暦 入院日終了年・月・日 入院日終了年・月・日 2
予後(後遺症)	<input type="radio"/>	予後に後遺症を選択した場合、詳細を記入してください(必須記入)	- 後遺症 詳細 1000
予後(その他)	<input type="radio"/>	予後にその他を選択した場合、詳細を記入してください(必須記入)	- その他 詳細 1000
回復状況	<input type="radio"/>	報告時点での回復状況を選択してください	- 回復状況
報告回数	<input type="radio"/>	今回の副反応報告書の報告回数を選択してください	-
保護者あるいは被接種者の同意	<input type="radio"/>	本報告書を市区町村、都道府県及び厚生労働省に報告されることに関して同意の有無を選択してください	- 副反応報告回数 同意

選択項目一覧

予防接種後副反応報告書に記載する項目の一覧を以下に記載します。

副反応報告書を手書きで記入する場合は、必ずこのシートも合わせて印刷し、この中から選択するようご注意ください。

対象ワクチンをご確認のうえ、そのワクチンに該当する期・製造所・ロット番号(半角英数記号)・副反応名(番号)を記述してください。

また、接種部位・接種方法・他疾患の可能性も表より選択し、記述してください。

DPT

製造所名	ロット番号
1期 初回 1回目	
1期 初回 2回目	
1期 初回 3回目	
1期 追加	

製造所名	ロット番号
北里研究所(北里)	ACOOOA~D
	AMOOOA~D
武田薬品工業(武田)	DOOOA~D
	GOOOA~D
	VOOOA~D
化学及血清療法研究所(化血研)	OOA~C
	OO
	FOOA~C
	KOOA~
阪大微生物病研究会(微研)	3EOOA~D
	3SOOOA~D
テンカ生研	OO-A~B
	OO
	※○には数字が入ります

副反応名	
D01	アナフィラキシー
D02	急性散在性脳脊髄炎(ADEM)
D03	ADEM以外の脳炎・脳症
D04	熱性けいれん
D05	無熱性けいれん
D06	ギランバレー症候群
D07	その他の神経障害(※1)
D08	39℃以上の発熱
D09	血小板減少性紫斑病
D10	肘を越える局所の異常腫脹
D11	全身のじんましん
D12	血管迷走神経反射
D13	通常の接種では見られない異常反応(※2)
D14	上記症状に伴う後遺症

DT

製造所名	ロット番号
1期 初回 1回目	
1期 初回 2回目	
1期 追加	
2期	

製造所名	ロット番号
北里研究所(北里)	BB000
武田薬品工業(武田)	NOOOA~D
化学及血清療法研究所(化血研)	OO
	MOOA~
阪大微生物病研究会(微研)	2EOOO
テンカ生研	OO
	※○には数字が入ります

副反応名	
T01	アナフィラキシー
T02	急性散在性脳脊髄炎(ADEM)
T03	ADEM以外の脳炎・脳症
T04	熱性けいれん
T05	無熱性けいれん
T06	ギランバレー症候群
T07	その他の神経障害(※1)
T08	39℃以上の発熱
T09	血小板減少性紫斑病
T10	肘を越える局所の異常腫脹
T11	全身のじんましん
T12	血管迷走神経反射
T13	通常の接種では見られない異常反応(※2)
T14	上記症状に伴う後遺症

選択項目一覧

日本脳炎

期	製法	ロット番号
1期 初回1回目		OOOS
1期 初回2回目		POOOA~D
1期 追加		XOOOA~D
2期		OO
3期		POOA~C
		COOA~
		JEOOOA~D
		OOO

製法	製法名	ロット番号
	北里研究所(北里)	OOOS
	武田薬品工業(武田)	POOOA~D
	化学及血清療法研究所(化血研)	XOOOA~D
		OO
		POOA~C
		COOA~
	阪大微生物病研究会(微研)	JEOOOA~D
	デンカ生研	OOO

製法	製法名	製法名
J01	アナフィラキシー	
J02	急性散在性脳脊髄炎(ADEM)	
J03	ADEM以外の脳炎・脳症	
J04	熱性けいれん	
J05	無熱性けいれん	
J06	ギランバレー症候群	
J07	その他の神経障害(※1)	
J08	39℃以上の発熱	
J09	血小板減少性紫斑病	
J10	肝機能異常	
J11	肘を越える局所の異常腫脹	
J12	全身のじんましん	
J13	じんましん以外の全身の発疹	
J14	血管迷走神経反射	
J15	通常の接種では見られない異常反応(※2)	
J16	上記症状に伴う後遺症	

ポリオ

期	製法	ロット番号
1回目		OO
2回目		

製法	製法名	ロット番号
	日本ポリオ研究所(日本ポリオ)	OO

製法	製法名	製法名
P01	その他の神経障害(※1)	
P02	39℃以上の発熱	
P03	全身のじんましん	
P04	じんましん以外の全身の発疹	
P05	通常の接種では見られない異常反応(※2)	
P06	免疫不全のない者での急性灰白髄炎(麻疹)	
P07	免疫不全のある者での急性灰白髄炎(麻疹)	
P08	ワクチン服用者との接触者の急性灰白髄炎(麻疹)	
P09	髄膜炎	
P10	上記症状に伴う後遺症	